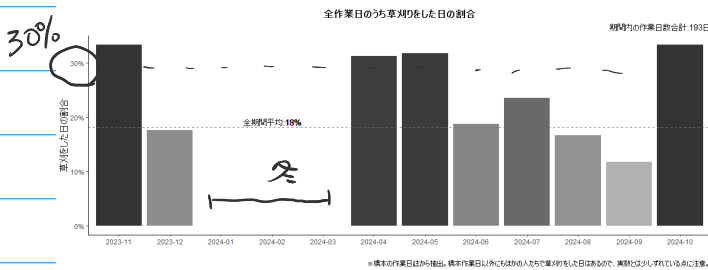


背景 農作業を始め、1年が経ちました。この間様々な経験をさせてもらってますが、一番大変で身にしみているのは、草刈り作業です。なにが大変かといえば、生産活動ではないこと。これも希少生産性を下げているなあと。来年から独立するので、何とかしたいところである。ということで今回は、まずは現状把握。全国のあぜの広さを3パターンに分けてみました。

## 前提

まず、この1ヶ月で僕自身が草刈りをした回数と日誌のデータからカウントしてみました。

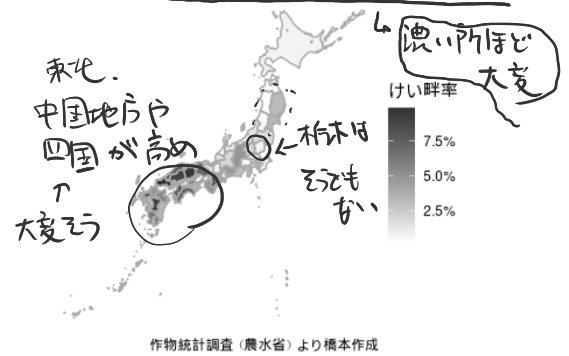


だいたい冬を除くと、3~4日に1回はどこかで草刈りしていました。

## ランキング①「本地(生産面積あたりの)あぜの広さ」

都道府県別けい畔率(畑地のみ、2022年比較)

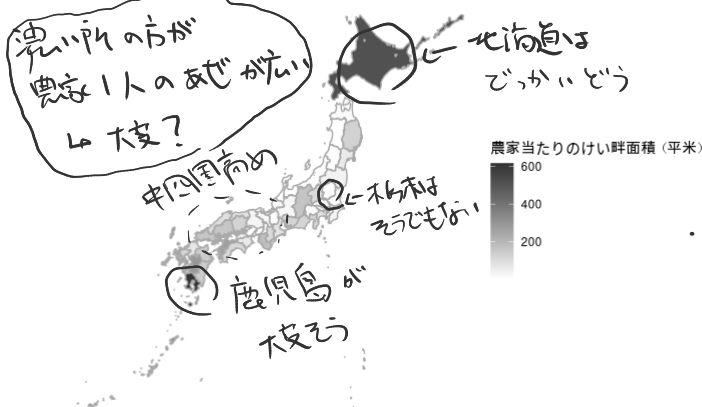
※けい畔率: 本地(作付けできる部分)に対するけい畔の広さ



## ランキング② 農家数に対するあぜの広さ

都道府県別 農家当たりのけい畔面積(畑地のみ、2019年比較)

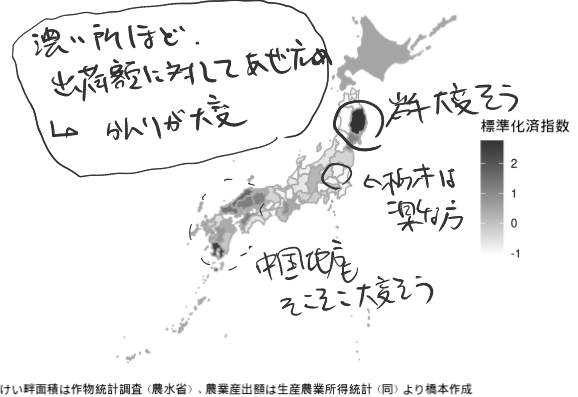
(面積30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家)の数値を利用。



## ランキング③ 生産額に対するあぜの広さ

都道府県別 農産物産出額あたりのけい畔面積(畑地のみ、2022年比較)

\* 農産物産出額: 米を除く耕種の出産量合計を利用。



## まとめ

- 〇 栃木は梨な方だった。(もちろん、単純な面積比較にすぎない。)
- 〇 逆に言えば、中国地方と太平洋側の東北地方とみれば、大変だからこの農家の工夫とか、あるかな。探しに行きたい。
- 〇 抑草技術とか、もっと知りたい。生産活動になるべく注力したい。
- 〇 読みやあい字をかけるようになりたい。